

「日本三大修験道英彦山」のある町 添田町の発展と未来へ

「1000年植樹プロジェクト」



「日本三大修験道英彦山」のある町 添田町の発展と未来へ

「1000年植樹プロジェクト」

英彦山はどんなところ？

日本三大修験道と聞いてどんなイメージを思い浮かべるだろうか？ 宗教、厳しそう、怖い、暗い、きつそう、山伏、法螺貝、白装束…。などあまり楽しげな感じはしないしよくわからないというのが正直な感想だろうか。英彦山は？と聞いても山、大分県境などあまりイメージがわからないのではないだろうか…。

福岡県と大分県の県境に「英彦山」はある。

福岡市から国道 201 号線を通り八木山経由で車で約 1 時間半。JR では博多駅から福北ゆたか線、後藤寺線、日田彦山線と乗り換え添田駅で下車。添田駅からはバスに乗り約 2 時間 15 分の道のりである。

2017 年 7 月の大雨で JR 日田彦山線の添田駅から彦山駅の列車は廃止となり線路は絶たれたが、今年の 8 月 27 日より高速輸送システム BRT「ひこぼしライン」の小型電気バスで日田まで行けるようになったばかりである。



英彦山は、北岳・中岳・南岳の三峰からなる標高 1199 メートルの霊峰で、福岡県内では 3 番目に高い山である。自然が豊かで、秋の紅葉はとても美しい。修験の霊場として栄えた英彦山神宮や豊前坊天狗神で有名な高住神社もあり、歴史的に見ても重要な場所だ。

英彦山はかつて日本三大修験道であり、「英彦山三千八百万坊」といわれとても栄えていた。2015 年の新聞の記事によると約 800 もの宿坊跡が発見されたという。



英彦山の歴史について

開山は 531 年。北魏の善正僧侶が山中で修行中に獵師と出会った。その獵師が白鹿を射止めようとしたところ、善正僧侶は、殺生は良くないと説いたが、獵師は聞き入れず白鹿を射た。するとどこからか、三羽の鷹がやってきて一羽は白鹿に刺さった矢を抜き、一羽は傷口を舐め、もう一羽は水にヒノキの葉を入れ飲ませた。すると白鹿は生き返ったという話が英彦山の始まりである。この話は「鎮西英彦山記」に残されている。

865 年清和天皇により従四位上を授けられた事が「延喜式神名帳」に、11 世紀初頭、増慶により中興されるまでの事が「太宰管内志」に、12 世紀の平安末期には後白河法皇の撰により歌謡が「梁塵秘抄」に記されている。それらのことにより、この頃の英彦山は西国の修験道の大拠点としてとても栄えており、英彦山の名は広く知れ渡っていたと考えられる。

衰退のきっかけとなったのは、戦国時代の 1500 年代頃秋月・大友氏の兵火により社殿が焼失。江戸時代初期 1616 年には小倉藩主細川忠興が再建したものの焼き打ちにあい、それに加え寺領廃止もあり打撃を受けた。さらに明治時代の神仏分離令により修験道が廃止され修験者達も追放され衰退の一途となった。

その後、山伏の本山であった霊仙寺を廃止し英彦山神社として再出発することとなり、昭和 40 年頃からはそれまで行われた行事が復活しつつあるという。

近年の添田町の人口最多は石炭産業の盛んだった 1955 年に 27,978 人。1960 年代以降の石炭需要の縮小とともに人口は減少し現在 8,801 人（令和 2 年）となってしまった。三大修験道であった英彦山のある添田町は空き家が増え続け人口も減り続けている。英彦山を訪れると観光客や登山者や修行者を度々見かけることもあるが、英彦山のある添田町は閑散としている。添田町ビジョンによると、このままでは 2060 年には人口が 4,316 人、高齢化率は 42.2%になると推計されている。

■ 添田町の人口推移

	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
人口数	12,750	11,810	10,909	9,924	8,801
世帯数	4,504	4,377	4,215	4,029	3,724



「夢のような話を本気でしたい」

その1

その添田町を「英彦山三千八百万坊」までとはいかなくとも、元気に、都会の人が気軽に足を運べる、運びたくなる場所にしたいと思っている。

長年、英彦山のある添田町に私ができることはないかと考えてきた。目の上のたんこぶのように、いつもいつも気になり想像しては壊し、また想像することをしてきた。

私は以前、日本三大修験道のある山形県に住む機会があった。英彦山と同じ日本三大修験道だったのでとても興味があったが実際に生活してみると、山形の自然や山々は私が知るものとは違うのである。気候か？山並みか？樹木の種類か…？山々やそこに続く道がキラキラと輝いているのである。この美しさは何だろう？といつも気になっていた。そこに住み生活していくうちに、自然に対する、山に対する人々の深い愛、想いを知った。このキラキラした美しさは、県民の自然への恩恵に対する感謝の念ではないかと考え始めた。

また、ある作家の「山」をミクロから考えた作品と出会った。そのキャプションの中での「山は一枚の葉からできていると感じる」という言葉が心に響いた。これは、一枚の葉は一本の木からなるものなので、一本の木が集まり林になり、やがて森や山になるということだと思うが、私は山は「山」と一括りに考えてしまっていたが、山は、一本一本の「木」の集合体であることを改めて考えるきっかけとなった。

当然、英彦山にはたくさんの木があり、そこに続く道も自然豊かではあるが、それでも、英彦山を取り囲む大きな範囲で木が必要でないかと考えるようになった。

私は添田町に属するものとして貢献し実行したいと常日頃考えてきた。

そして考えたことは、英彦山へ続く道や、添田町に「植樹をするということ」「木を植えていく」ということだ。

これが私の「夢のような話を本気でしたい」ものとなった。

ここでは日本三大修験道と樹木との関係を取り上げる。



日本三大修験道の聖地「奈良県の大峰山」植樹、その取り組みについて

大峯連山の一部である吉野山は、奈良県吉野郡吉野町にある。吉野といえば、古来より日本一の桜の名所である。

約 1300 年前、修験道の開祖である役行者が山桜の木にご本尊蔵王権現を刻んだことにより桜が御神木となり献木されたことが吉野桜の始まりだ。人々がお参りする時に桜の木が献木され、植えられ増え続けたということだ。

大正 5 年には吉野山公益財団 吉野山保勝会が設立された。その目的は「吉野山に残る我が国史の遺産を維持継承する事と共に日本精神の象徴たる国花、山桜を保持すること。国・県・町・地元が協力し合いながら大切に育てていく、そしてこれを後世に残していく。」とある。

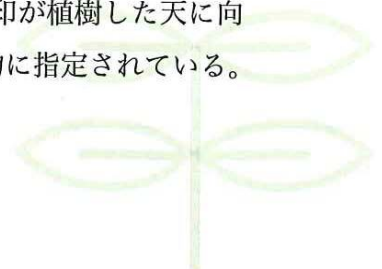
それ以降吉野の桜は、大切に、大切に育てられ守られてきた。吉野山の桜はシロヤマザクラで落実したさくらんぼの種をとるところから生育が始まる。種拾いは毎年行われ、長い期間大切に育てられ苗木となり、その後小学校の生徒や企業などにより植樹されるという。吉野山保勝会では植樹後の管理も行っている。また啓蒙、保全活動のため、吉野学校という機関が作られ、勉強会やサマースクールなども行われている。県、町、そこに住む子供から老人、団体では幼稚園、小学校、企業まで多くの人に関わり続け地域が密着した取り組みを行っている。吉野の桜を見ればどれだけ大事にされ愛されているかがよくわかる。1300 年もの間、桜の木々は増え今は 3 万本にもなったそうだ。

啓蒙や保全活動があったからこそその見事な美しさである。

日本三大修験道の聖地山形県「出羽三山」について

日本三大修験道の聖地山形県 出羽三山（月山・湯殿山・羽黒山を出羽三山という）593 年崇峻天皇の御子である蜂子皇子が開山したといわれている。山伏の修行も蜂子皇子がはじめたとされる。

第 50 代執行別当天宥法印は、江戸時代初期、戦国の動乱により荒廃した羽黒山を立て直し整備をおこなったとされる。具体的には 13 年の歳月をかけ随神門から山頂まで約 2km の表参道に 500 本以上の杉を植え、2,446 段の石段を築き、8km 先の水呑沢から祓川まで水を引いて不動の滝を造った。天宥法印が植樹した天に向かいまっすぐ伸びた美しい老木の杉並み木は国の特別天然記念物に指定されている。



これもまた、鶴岡の人々、山形県の人々が愛し大切に守ってきたものだ。

山形市内は山に囲まれている。地形からもわかるように盆地になっている。またそこでの生活は山や自然との関わりが密接であり、山とともに生きるという感覚を強く感じる。山はどの山を見てもとても美しく、自然に山へと足が向く。県外からも修験体験をする人が多く、男女問わず若者も多く見られる。出羽三山が山岳信仰の聖地になったということがよくわかる。

山形の人々は、その地に産まれた時から山への畏敬の念が啓蒙されているのではないかとと思われる。



「夢のような話を本気でしたい」 その2

調べていくうちに、やはり「木を植える」ということが大切なのではないかと、という思いがさらに強くなった。「日本三大修験道 英彦山のある町、添田町」として1000年後の未来のために、植樹をする。そんなことが福岡県で、添田町でできないだろうか。

英彦山へ続く道にも多くの山がある。それらの山は、住民が高齢になったり継ぐものがいなくなったりで、竹が茂り荒れてしまったものもある。こうした山々に、道々に添田町、英彦山の風土に適した木を植える。

日本を代表する三大修験道英彦山としての美しい町に10年、20年、100年1000年かけてなっていく。創っていく。それには、保全活動、啓蒙を行う大きな組織が必要だ。

そこで私は、「1000年植樹プロジェクト」を立ち上げることを提案したい。

1000年植樹プロジェクト

添田町の山々、英彦山へと続く道、添田町全体に植樹をし、
より一層美しい「日本三大修験道のある町、添田町」へ

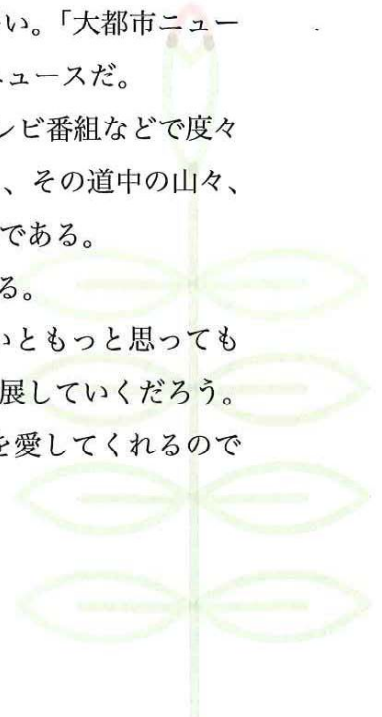
国外をみても植樹プロジェクトを実行している都市や地域は多い。「大都市ニューヨークで100万本の植樹」というニュースが最近の私が驚いたニュースだ。

また、聖地・巡礼場所が題材として映画やドキュメンタリー、テレビ番組などで度々取り上げられている。取り上げられる理由は、信仰心だけでなく、その道中の山々、道々、景観がとても美しいということもあるのではないかと思うのである。

聖地・巡礼の道は1000年以上も前から人々は、歩き続けている。

英彦山へと続く道が美しいものであれば、歩きたい、通りたいともっと思ってもらえるのではないだろうか？皆が通りたいと思えば、おのずと発展していくだろう。

これからの、まだ生まれていない未来の人たちもこの添田町を愛してくれるのではないだろうかと考える。そうなってほしい。



私は、日本古来の自然の恵みを生命の源とし融和する山岳信仰がより大事とされる時が来ると思っている。人々が登山や癒しに、より自然の中で過ごしたいという時が来ると思っている。「太陽の光を受け、時には雨を全身で感じ、風を感じ、木々の音、川のせせらぎの音、風の匂い、山の匂い、土の感触を確かめる喜び」これは、どんなに AI が進化してバーチャルな世界で疑似体験できたとしても、本物ではない。直接、自然の中に入り、人間の魂で触れなければ喜びは感じることはできないからだ。

福岡県の大事な大きな山、山岳信仰の山を、そしてその山に続く道が必要とされる時が来る、必ず来ると思っている。

植樹の始まりが僧侶、信仰でなくても、町民、県民から始まる「一本の植樹」があっても良いのではないか。吉野山も羽黒山も最初是一本の木から始まったのだ。

未来のために。木々が育ち、並木道ができ、整備や維持、啓蒙するための団体ができ、整備し続ける。

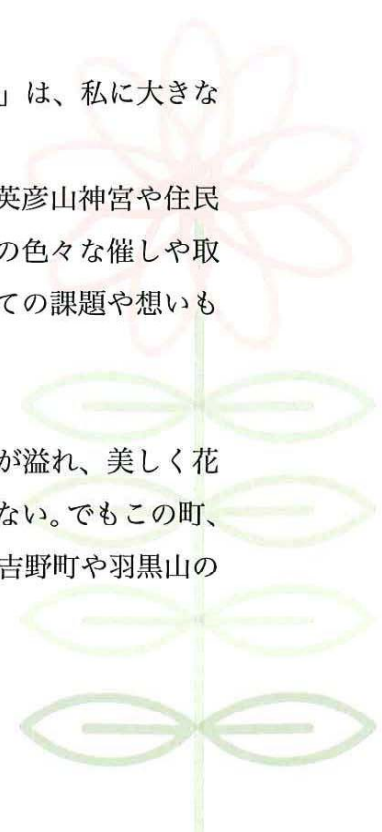
英彦山が開山された 531 年の古墳時代から考えると英彦山へと続く道は 1000 年先も人が通り続けるだろうから。

最後に

この公募のタイトルである「夢のような話を、本気でしよう。」は、私に大きな力をくれた。

添田町について、修験道について色々調べていくうちに、英彦山神宮や住民による復興プロジェクトが立ち上がっていること、町民の方々の色々な催しや取り組みを知る事ができた。賛同したいと思ったし、自分にとっての課題や想いも見つめ直す事ができたからだ。

植樹して大木になるには多くの年数がかかる。添田町に木々が溢れ、美しく花が咲き乱れる頃は、当然ながら私は生きておらず見ることはできない。でもこの町、山々は所在し生き続けるのだ。1000 年後の添田町が、吉野山の吉野町や羽黒山の鶴岡市のようにあってほしいと心底願うばかりである。





大都市の福岡市 アジアへと続く美しい海 美しい山々がある福岡県

そして 日本三大修験道のある美しい町 添田町

となる日を信じて。

(参考資料)

よくわかる山岳信仰 瓜生中(著) (角川ソフィア文庫)

山伏と僕 坂本 大三郎(著)

西日本新聞 <https://www.nishinippon.co.jp/item/o/274093/>

読売新聞オンライン <https://www.yomiuri.co.jp/local/kyushu/news/20230828-OYTNT50063/>

朝日新聞 GLOBE + <https://globe.asahi.com/article/14629731>

ウィキペディアフリー百科事典 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8B%B1%E5%BD%A6%E5%B1%B1>

公益財団法人 吉野山 勝会 http://www.hoshoukai.yoshino.jp/about_5.htm

和歌山県世界遺産センター <https://www.sekaiisan-wakayama.jp/know/yosino-omine/>

出羽三山神社 <http://www.dewasanzan.jp/publics/index/71/>

吉野町公式ホームページ <http://www.town.yoshino.nara.jp/>

英彦山ネット https://hikosan.net/guide/tozan_map.html

英彦山神宮 <https://hikosanjingu.or.jp/access/>

添田町人口ビジョン <https://www.town.soeda.fukuoka.jp/docs/2016080400027/files/1jinko-bijyon.pdf>

添田町公式ホームページ <https://www.town.soeda.fukuoka.jp/>